

会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
発行責任者 宮島喜文
編集責任者 深澤憲治

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722
ホームページ <https://www.jamt.or.jp>

P1~P2 令和6年 新年を迎えて

P2 令和5年度臨床検査技師のための臨床研究とCRCに関する研修 参加者募集中!

P3~P4 日臨技支部医学検査学会開催報告(4) 【首都圏・関甲信支部】 【中部圏支部】

令和6年 新年を迎えて



会員の皆様に対し、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

2019年に中国で発生した新型コロナウイルス感染症は瞬く間に全世界で蔓延し、社会経済活動の制限を余儀なくされましたが、多くの感染者を出した欧米諸国では、いち早く制限を解除し国際的な往来も活発となりました。我が国においては、昨年5月に感染症法上の位置づけが2類から5類へ変更されたことに伴い、感染直後から叫ばれた3密の回避など、人に対する行動制限は撤廃され、新型コロナウイルス感染症が流行する以前の行動にほぼ戻りました。しかし、医療機関などはこの教訓を基に感染対策に配慮した体制を続けております。新型コロナ禍で潜めていたインフルエンザの流行や、変異スピードが驚異的に速い新型コロナウイルスなどの感染状況に、本年も引き続き注視していく必要があります。

社会経済活動では、海外からの訪日客も以前の賑わいを見せ、観光・飲食・宿泊関連などのサービス業も業績が回復するなど復活の兆しを見せ始めていますが、物価高騰の影響により個人消費や設備投資が十分進まない状況にあると言われています。

さて、我が国の中長期的な課題である少子高齢化の進行、人口減少などは、今回の新型コロナウイルス感染症の拡大が拍車をかける結果となり、我が国は今までに経験したことのない国難と直面しており、全世代型社会保障制度改革として「人づくり革命」「働き方改革」を着実に推進していかなければなりません。

そのような中、政府は令和5年6月16日、「経済財政運営と改革の基本方針2023 加速する新しい資本主義～未来への投資の拡大と構造的賃上げの実現～」(いわゆる「骨太方針」)を閣議決定いたしました。これは「時代の転換点」とも言える構造的な変化と課題に直面する中、30年ぶりとなる高い水準の賃上げや企業部門における高い投資意欲など、足下での前向きな動きを更に力強く拡大すべく、新しい資本主義の実現に向けた取組を加速させ、新時代にふさわしい経済社会の創造を目指すとしています。しかしながら、我々が関係する医療・介護の分野においては、可能な限り効率化を図り、支出増大を抑制していくという方針が記述され、低賃金による人材不足が叫ばれている中でこの問題に対し、業界の一員として声を上げる必要があると考え、政府・自民党への令和6年度予算税制政策要望の中に、初めて“臨床検査技師を含む医療職種の賃上げによる待遇改善”を加えました。

また、私は会長に就任して以来、過去の歴史や実績におごることなく、一貫として「日臨技を新生させ、未来を切り開く」をスローガンに前進し役員一同誠心誠意、会務の遂行に努めてまい

りました。その結果、会員数はこの十年間で約二万人増加し、令和5年8月末において目標としていた七万人会員を達成することができました。事業活動に関しては、従来からの学術事業などに加え、相次ぐ法改正に基づく講習会や認定技師制度の拡充、臨床検査精度管理事業の充実を図り、事務局員も増員し組織の増強を図りました。令和3年度から三大主要事業として取り組んだ「品質保証施設認証制度」、「タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会」および「臨床実習指導者講習会」は、コロナ禍の影響を受けたもののほぼ順調に進んでいます。これらの重点事業が概ね順調に進む中、昨年度は本会創立70周年記念事業も成功裏に終え、次のステージに向けた新たな事業も開始しました。具体的には、コロナ禍の組織運営や第4次マスタープランの検証結果を踏まえ、医療介護や臨床検査の需要が減少する2040年を見据えて、その時期を担う若手メンバーにより策定した「未来構想」の報告書をもとに、第5次マスタープランの作成やこれからの時代にふさわしい学術・生涯教育システムの構築、日臨技連盟の強化、組織体制の改革、そして行政とは継続的に協議ができる都道府県技師会の育成など、現行の組織体制や既存事業を見直す組織運営や学術の大改革を現行執行部が中心となる“次世代育成プロジェクト”を進めて参ります。また、臨床検査技師の業務範囲として広げた“病棟”や“在宅”に加え、救急救命分野への参画など多岐にわたる業務範囲の拡大も進めて参ります。

更に、昨年実施した調査で臨床検査技師に関する国民の認知度が低いとの結果を踏まえ、広報・宣伝活動の取組を強化するとともに、昨年日本に招致できた2026年IFBLS（世界医学検査学会）の開催に向けた準備に入ります。

本年も日臨技は職能団体として、厚生労働省や医療団体・各種専門学会などと連携を深め、臨床検査技師の職域拡大と待遇改善、社会的地位の向上を目指すとともに、各々の職場で臨床検査技師が医療人の一員として専門的な知識や技術が発揮できるよう生涯教育に取り組んで参ります。

昨年同様に役員一同、誠心誠意、各種事業の遂行に努めてまいりますので、会員の皆様の温かいご支援と一層のご協力を賜りたくお願い申し上げます。

令和6年 元旦
代表理事会長 宮島喜文

令和5年度臨床検査技師のための臨床研究とCRCに関する研修 参加者募集中！

本研修会は、臨床検査技師の職域拡大とチーム医療の推進を目指し、臨床研究・治験の倫理性、科学性、信頼性を確保するための知識の提供に加え演習を設け、最新の専門知識と技能を習得することを主な目的としています。臨床研究・治験における臨床検査の実施は、被験者の安全性の確認の結果の評価のために必要です。この機会に是非、参加をご検討ください。

テ ー マ： 臨床検査技師のための臨床研究・治験スキルアップ
～研究推進と臨床検査技師を含む医療職種への役割～

会 期： 令和6年3月17日（日）9時30分～16時00分

会 場： Web 開催（Zoomの利用）

募集人数： 60名

受 講 料： 日臨技会員3,000円 非会員6,000円（税込）

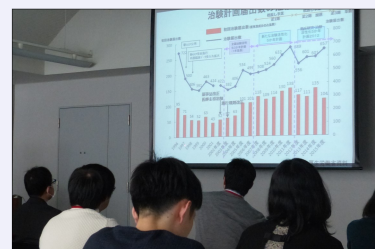
申込締切： 令和6年2月22日（木）

（定員になり次第、申し込みは締め切ります）

申込方法： 会員の方 会員専用ページからの事前申込をしてください

非会員の方 申込書をメールで送付してください（gyomuka@jamt.or.jp）

※申込書は当会HPの学会・研修会情報「日臨技主催研修会」からダウンロードできます。



平成31年度研修の様子
（本年度はWeb開催となります）

日臨技支部医学検査学会開催報告(4)

2023年度 首都圏・関甲信支部医学検査学会

「温故知新」～ 技と知識の伝承・熱い2日間 ～

学会長 芹澤 昭彦
実行委員長 押田 好美



学生フォーラム
の一コマ



意見交換会の中国
獅子舞による余興

2023年11月25(土)・26日(日)の2日間、パシフィコ横浜アネックスホールにて2023年度日臨技首都圏・関甲信支部医学検査学会(第59回)を一般社団法人神奈川県臨床検査技師会担当のもと開催いたしました。

学会テーマは「温故知新」～技と知識の伝承・熱い2日間～としました。近年の臨床検査業務におきましては、医療技術のAI化、がんゲノム医療などその検査技術の進歩は日々加速度的に進んでおります。私たち臨床検査技師の使命として、その新たな技術や知識を習得する事も重要であります。日々の業務においては、最新の技術や知識だけでは解決できない「問題」や「気づき」などあり、その根本にあるのは基礎や基本的な知識や技術習得も大切だと我々は考え基礎的な内容を中心と最新の知見を融合したプログラム構成で、特に今までコロナ対策で現地参加ができなかった多くの若手の技師の皆さまに参加していただく企画・運営を進めてまいりました。

プログラムとしては、市民公開講演2題、日臨技企画3題(基調講演・品質保証施設認証制度・学生フォーラム)、神臨技企画2題(医療安全セミナー・英会話講座)、教育講演9題、シンポジウム9題、ハンズオンセミナー1題、一般演題86題、20社の企業展示も行われ、参加者数は会員約990名、協賛・賛助会員および学生・市民が約280名の合計約1,270名と多くの皆様に参加いただきました。

市民公開講演(特別講演)として、神奈川歯科大学副学部長の槻木恵一教授の「もう『ツバ』とは呼ばせない— 脅威の唾液健康パワーを高めて健康長寿 —」として唾液に関する働きや検査に向けてのご講演、日本認知症予防学会代表理事で鳥取大学医学部保健学科認知症予防学講座の浦上克哉教授による「科学的に正

しい認知症予防に取り組もう」として認知症に関する正しい知識や向き合い方などについてご講演いただき、市民の皆様やわれわれ臨床検査技師にも分かりやすい内容で時間いっぱいまで質問が挙がっておりました。日臨技企画として宮島会長から「2023年、臨床検査技師の将来を考える」神山執行理事から「日臨技精度保証の方向性」としてご講演をいただき、日臨技と各都道府県との役割や方向性が分かりやすくととても勉強になりました。また、学生フォーラムでは神奈川県養成校4校と若手技師が組みとなり、検査技師の未来への期待や検査技師になるにあたっての質問コーナーもあり、また、サプライズで宮島会長も参加いただき会場に立ち見ができるほどの大盛況でした。神臨技企画や各部門による教育セミナー・シンポジウムや一般演題でも活発な討議が交わされており、初めて発表する若手技師の臨調感もあり、まさに温故知新のテーマに沿った内容でした。また、意見交換会も開催でき活発な交流もなされ横浜ならではの中国獅子舞による余興もあり楽しんでいただくことができました。会期中の外の気温はぐっと冷え込む天気でしたが、会場内は技と知識の伝承の有意義な熱い2日間となりました。

最後となりますが、学会に参加していただきました皆様ならびに準備から開催まで大変多くのご支援やご協力いただきました全ての皆様のおかげで無事に終了いたしましたことを心より感謝申し上げます。

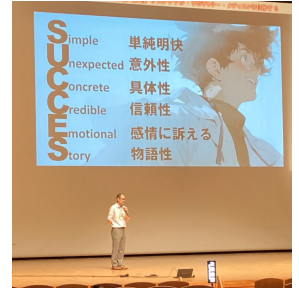
2023年度 中部圏支部医学検査学会

「イノベーションと多様性」～ サステナブル・ラボラトリー・メディシンを目指す!! ～

学会長 長原 三輝雄
実行委員長 大江 宏康



写真上：文化講演 高崎憲親氏
写真右：令和石臨技塾企画 岡田悟先生



令和5年度日臨技中部圏支部医学検査学会（第61回）を、令和5年12月2日（土）・3日（日）に、石川県臨床衛生検査技師会（石臨技）の担当で金沢駅に隣接した石川県立音楽堂およびホテル金沢にて現地開催しました。

本学会のテーマは「イノベーションと多様性 ～サステナブル・ラボラトリー・メディシンを目指す!!～」とし、今、求められる臨床検査技師とラボラトリーの在り方について考え、新たな技術への研究、教育、指導を持続する仕組みについてディスカッションしたいという思いで掲げさせていただきました。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、通常通りの開催に向けて準備を進めてきた結果、日臨技会員722名に加えて、賛助会員、非会員、学生等を含めると900名を超える多くの方が現地に集まり大盛会となりました。

プログラムとして、文化講演1題、教育講演1題、会長基調講演1題、日臨技企画1題、支部シンポジウム1題、令和石臨技塾企画1題、部門別研究班企画9題を企画しました。

一般演題は122題と前年の第60回を超える発表があり、コロナ禍以前に戻ってきていることが感じられました。

「文化講演」は、米プロバスケットボールNBAの八村塁選手により全国的に知られている北陸製菓の代表取締役社長 高崎憲親氏に「世界に笑顔とおいしさを～世代を超えて愛されるお菓子づくり～」と題してご講演いただきました。歴史的背景を押さえながら、目標に向けてチャレンジし続ける熱い姿勢が会員に届いたと感じられました。

「教育講演」では、元旭川医科大学病院 診療技術部の友田豊先生に「グループワークを利用した人材育成プログラム」と題して、ご自身がこれまで取り組まれてこられた人材育成プログラムの立ち上げからコンセプト等について具体的な内容をご紹介いただきました。

「令和石臨技塾企画」では、東京北医療センター岡田悟先生に「見る人に刺さる！ 魅力的なスライドと伝わるプレゼン講座」を行っていただきました。令和石臨技塾とは、石臨技の若手から中堅の技師が中心となり、部門別研究班とは違った学びの機会の創出と、所属を超えた仲間づくりを目的とした活動で、今回の企画の立案、運営を行いました。

「学生フォーラム」は、臨床検査技師学生団体SOLS (STUDENT ORGANIZATION OF BIOMEDICAL LABORATORY SCIENTIST) が企画運営を担当し、「臨床検査技師の今と未来を繋ぐ」をテーマに、対話促進ツール「えんたくん」を囲み、学生、現任臨床検査技師、教員が「臨床検査技師の将来像」についてフラットに語り合いました。「有意義だった」、「是非継続して欲しい」という感想が多く聞かれ、参加者の高い満足度を得ることができました。

石川県立音楽堂交流ホールで機器試薬展示を開催し、27社のブースには多くの会員が足を運び、最新の情報に接する場となりました。さらに、ランチョンセミナー7題、モーニングセミナー2題と多くの企業に共催いただきました。

参加者、企業、実行委員が一体となり、私たちが目指すべき未来の姿を思い描くことのできる学会となりました。実行委員一同厚く御礼申し上げます。

（編集後記）年が改まったその日の災害発生に、被災された方々の心労は寒さも相まって壮絶なことと思われ、ただただ心が痛むばかりです。亡くなられた方々に謹んで哀悼の意を表します。年末年始の医療現場で働かれた皆様、被災された医療施設を懸命に立て直していらっしゃる皆様、本当にお疲れ様です。日臨技も災害対策本部を立ち上げ、情報収集並びに関係機関との調整を始めています。今後適切な支援活動に努めてまいります。
(宮原)